

関西民放クラブだより

写真の会 ギャラリーで

写真展の開催

車谷 隆史（YTV）

第 2 回関西民放クラブ写真同好会の写真展が昨年暮れ 12 月 20 日から 1 週間かけて開かれた。

今回は新装なった富士フイルムイメージングプラザ大阪で開催。

同プラザは南のど真ん中、地下鉄なんば駅を出てすぐに位置する。

昨年（心斎橋）よりは地の利は有利。多くの人々が来てくれることを期待する。出だしは上々、40 人の芳名録記載、それ以外にも 10 人前後の入場者を迎えた。途中土日を含んで 300 人越えと読む。



クラブ員の作品は各自 2 点を

展示。17 人の参加で 34 点。見て

いただいた人にはお判りでしよう

が作品はてんでんバラバラ。各自得意とするジャンルが違う。大きな風景から点景、人物から昆虫迄、

撮影場所も北海道から自宅迄幅広い。

作品が出そろった後、作品がより良いものになるまで策を練った。

ピントが来ているか、露出はどうか、白飛びがないか、黒の締まりは、トリミングしてよくなるか。

そして写真店と打合せ、プリント上がり迄チェック。キャプション、目録、芳名録の準備。展示会当日

に向けて準備を怠らない。そして展示会当日を迎えた。

お客さんからは「素晴らしい」「とても足元にも及ばん」「参考にしたい」等の声。もちろん反省すべき点もある。準備に当たって

数人の人たちに負担をかけたこともそのひとつ。

今年も写真展を開くことについて、少しでも安く上がることを、

みんなで創り上げることを目標に、「開催しよう」という声。反対者

はいなかった。関西民放クラブ 30 周年記念写真展の 1 回目から 2 回目へ 1 年かけて頑張ってきた成果が表れた展示会でした。

「夜の散策同好会」

鈴木 正勝（KTV）

平成 20 年春、全国の民放クラブでもここだけという「夜の散策同好会」がスタートしました。

八十路前後のおじいさん（おばあさん）たちが、大阪北の新天地に繰り出し、散策しようという同好会です。北新地にはステータスシンボルのようなクラブがいくつか

ありますが、まず私たちが選んだのは「山名」です。

かつては大阪の「夜の商工会議所」といわれた「太田」を譲り受けた山名和枝さんが、開業して 52

年間、夜の街に君臨し続けているお店です。

スマホで「山名」を調べると「名刺交換を交わし二人のママに

囲まれ楽しいひと時を過ごしてふと思った。真のクラブとはこう

いう店でありこの老舗が活気に満ちていた時代にタイムスリップしてその雰囲気味わう…」と。

一部の人を除いて現役時代殆ん

ど行ったことのないお店ですが、八十路をとうに越したママはじめ、北新地クイーンのひとりに輝いたホステスさん、さらに自分の孫のような若手までが隣に座って話の相手になってくれます。

若い娘たちと話をしていると、オーバーに言えば、日本の今、大阪の今が分かります。同時に時代についてゆけない時代が遅れている自分がよく分かります。

ママの山名和枝さんの名言は「私は、お金を追ったことはない、ずっと仕事を追ってきました。」

はて私は「ずっと仕事を追って来た」と胸を張って言えるのだろうか反省しきりです。

遊びながら、学びもしている夜の散策同好会です。

遊

散



夜の散策同好会メンバー